

創刊号

vol. 1

マガジン ピー
2021.12.25

take
free

magazine



特集

世界の半分は女性だ !!

ジョセイノセイジサンカクってなんだ !?

特集 世界の半分は女性だ!!

ジョセイノセイジサンカクってなんだ!?

「ジョセイノセイジサンカク」少なじどうなるの?
次のページへ



Contents

《特集》世界の半分は女性だ !!	3
ジョセイノセイジサンカクってなんだ!?	4
小越智子さんインタビュー	6
堀内のりこさんインタビュー	9
こんなオトナもいるよ① ~市川房枝さん~ 須田直菜	12
ちいさなチャレンジ① 内野清美	14
子どものこえはたからもの① 雨宮国広	15

magazine P マガジン ピー 創刊号
発行日 2021年12月25日
発行 こども未来ラボ
〒405-0002 山梨市東1750 magazine P 制作チーム
E-mail: kodomo.mirai.lab@gmail.com
HP: <https://kodomomirailab.wixsite.com/website>
タイトルロゴ&表紙イラスト Kiharu(5才)
magazine P 制作チーム(50音順)
雨宮国広 内野清美 須田直菜 田口京
©こども未来ラボ 2021 本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

P：男性議員だったら「お子さんどうしているんですか？」とは聞かれないですよね！

小越さん…いまジエンダーの問題がこんなに大変になつていて、以前「そんなつまらないこと」って議会で言われたのがいわゆる男→女順名簿ね。何回か議会で質問したときに男性議員や職員

F・保育園のお迎えは実際どうして
いたんですか？

・二育でを楽しんで 社会や政治にも関心持つて参加して、つて時間や心の余裕がないとできないですね。いまみんな忙しくて民主主義やってる時間もなくて、それすごい問題だよねって思います。女性議員だからこそ実現できた！ っていうことはこれ

晴らしい！ つてなると誰もついてこないし、広がつていかないと思ふんですよね。「あなたが自分で選んだんだから全部やり切りなさい！」っていうのはちょっと違います。

う気もしますけどね。議員も出産して産休育休を取る制度が確立して、子育ても頑張るし、議員もやるっていう両方できる仕組みをつくりていかないと。どっちかを犠牲にしてどっちかをやるっていう

P's INTERVIEW インタビューその①

山梨オンリーワンの女性県議会議員

小越 智子さん

インタビュー日 2021年7月21日(水)
インタビュアー magazine P制作チーム
オンラインにて実施

山梨ってなんで
女性議員さん少ないの?

梨は女性議員が少なくて、女性の声が届きにくいくらいの気はします。いろんな立場の、いろんな階層の、いろんな地域の声が集まつて「こうした方がいいんじゃない?」と言える議会を構成したほうがいい。その要素の一つが女性だとわたしは思うんですよね。

いと思うんですね。政策で見てもいいみたいなと思うし、当選した後こそ自分が投票したひと、しなかつたひとがどんなことを言つてどんなことしてゐるのか、みんなに見てもらいたいなつて思ひます。

現職の国会議員は圧倒的に男性が多いので、男性議員と差し替えで女性の候補者を出すっていうのは中々大変らしいですね。地方議会になるといろんな要因が絡んで難しい。業者代表、消防団の団長、PTAの会長など、地域の代表みたいな慣習があるのかもしれない。でも役職についている=その地域の代表、っていう訳でもな

小越さん：一番最初に甲府市会議員になったときは（1999年）まだ下の子が保育園だったから、17時過ぎると「保育園のお迎えどうしよう！」って思うんですね。女性が家庭、子育て、仕事、全部一人で頑張ることが素



P：国政において政策決定の場に女性が1割しかいないハードルのひとつとして、女性議員に対する根拠のない攻撃があると思うので、ですが、そういったハードルは感じますか？

堀内さん：多分まだ女性議員が珍しくて、ある意味自立つ部分もあるからいろいろなご指摘を受けるところではないかと思います。男女半分ずつくらいになれば、別にそれが女性だろうが男性だろうが、同じようになっていくのでよろしくご指導下さい。

「『やったー!』と
意外すぎる特技

P：議員として国政で活躍し続ける上で土台となつて いる「これは実現したい！」という課題はなんですか？

堀内さん：政治の場に女性が少ないから置いてきぼりになつてゐる

外のことが入ってきたりするのが日常茶飯事なので、子どもにとつておかあさんの存在が絶対必要という年齢のときにたとえば約束を破らなきやいけないっていうのはおかあさんにとって辛いだろうなと思います。女性については、議会のなかに必ず何人かいてもらわなきやいけないという枠組みや何らかの支援が必要ですが、クオータ制について言うと、それもまたまだまだ議論が必要なところだと思います。

■内閣へ：厚生労働政務官になつたときですから5年くらい前です

P .. 結構最近なんですね！

P.. 今まで女性が担ってきた家事育児を男性も担うことで、女性

で、家庭でも自分の意見を言えるようになつていくためにも、
政治がそういう仕組みをつくつていかないとなら
よ。う。



日本のジエンダー ギャップを平らにする

P：最後に、日本のジェンダー・ギャップ指数についてお伺いします。

堀内さん：ショントーキャップ指
數、日本は低いですね。政治分野
が 147 位と極端に低いので直し
ていかなくちゃならないと思いま
す。あまりに極端に振れないと
国の方としていびつになってしま
しまうと思うので、そこはもつと
女性が政治参画していくべきだと
思います。

先に首を切られて吸入が大幅に減って、自殺にまで追い込まれてしまうケースも増えているんです。やっぱり女性がしっかりと仕事をして経済的にも男性と対等でいられる状況になつて、家庭でも自分の意見を言えるようになつていくためにも、

いる、ちょうどいい収穫時期だなっていうときに食べられてしまって、ということを伺いました、これは深刻な問題だと思い、わたしもこの問題を理解することにつながると思って免許を取りました。

が社会や政治について考える余裕もできると思います。小さな子どもを育てるわたしたち子育て世代が、そういうたジェンダー不平等を感じながら子育てをしている最中です。

A photograph showing two individuals, a man and a woman, working on a large-scale floral arrangement. The man, wearing a blue jacket, cap, and gloves, is leaning over the flowers, while the woman, wearing a green vest and a mask, stands beside him. They are surrounded by numerous white flowers, likely carnations, in a greenhouse or similar setting. The background shows structural elements like scaffolding and a red wall.

A photograph showing a person's hands wearing blue gloves, carefully arranging a large quantity of white flowers, likely carnations, in a field or at a market stall. The person is wearing a green vest with the brand name 'singer' printed on it. The background is filled with more flowers.

P：本当にそう思います。クオータ制を論じると、じゃあただ単純に女性の数を増やせばいいのか、能力があれば議員になれるだろう、という声が聞かれたりするんですが堀内さんはどう思われますか？

壇内さん：市町村議会で女性議員が増えて、都道府県議会の女性議員も増えて、国会の女性議員が増えてっていう積み重ねはあると思うんです。国会議員のなかにも元市議会議員・都道府県議会議員の方たちがたくさんいらっしゃいます。能力を問うのではなく、なにしろ女性がもっと地域の政治に参加していくのが必要だと思います。

P：女性議員ならではの苦労や大変さを感じることはこれまでありましたが？

Ｐ：男も女も同じだけ時間やお金
をかけて教育を受けて社会に出て
仕事をします。わたしは「寿退社」
という名の実質強制退職を過去に
経験しましたが、結婚出産をきっ
かけにこれまで積み上げたキャリ
アがぶちっと断ち切られるのは圧
倒的に女性が多く、社会に復帰し
ようとする正社員の道は断たれ
ている負のジェンダーループが存
在します。

政権与党にいらつしやる堀内さ
んに、ぜひよりよい仕組みづくり
を期待します！

A photograph showing the back and side profile of a person wearing a high-visibility orange vest over a green jacket with reflective stripes. The person is standing next to a white van. The van has some red and blue markings on its side. The background is a paved surface.

写真提供：衆議院議員 堀内詔子峠東事務所



こどものこえは
たからもの*

①

2021年秋西湖にて



私は、2019年夏、国立科学博物館主催の3万年前の航海徹底再現プロジェクトで、旧石器時代の丸木舟づくりに挑みました。丸木舟は、台湾から黒潮を乗り越え見事に与那国島に到着したのです。

その後私は、この貴重な体験を子どもたちに伝える活動をスタート。ところがコロナ禍で学校での授業が出来なくなりました。私はその様な中で、キャンプ場での授業に活路を見いだし、2020年夏にキャンプ場に来た子どもたちと、石おのを手に丸木舟をつくり上げました。どの子も、素晴らしい笑顔と好奇心で向き合ったのですが作業後、ひとりの子が悲しそうな顔をしてつぶやいたのです。「ぼくはバカなんだよ」と。

私は、彼の心の叫びを聞いた瞬間大人として、学校の勉強が出来ないことで、自己否定させてしまった責任を感じ、「だれひとりとして自分がバカだなんて思わせない教育をしなければ」と心に刻みました。

丸木舟づくりは、子どもたちにこの様な体験の場をつくり、人間として「すべての生き物たちにとっての、やさしいものづくり」とは何かを、共に学び合いたいのです。「やさしさ」の力でものをつくる楽しさを味わえます。それはまさに、他の動物と違い、道具を手にしてものをつくる「人間らしさ」の体感なのです。

私は、多くの子どもたちにこの様な体験の場をつくり、人間として「すべての生き物たちにとっての、やさしいものづくり」とは何かを、共に学び合いたいのです。「やさしさ」の力でものをつくる楽しさを味わえます。それはまさに、他の動物と違い、道具を手にしてものをつくる「人間らしさ」の体感なのです。

では、その心を子どもたちにどうやって教育していけばいいのか。まずは、「自身を知ることです。やさしい心を知らない人に、「やさしさ」とは何かを伝えることは出来ないからです。

「ぼくはバカなんだよ」の声に、あなたならどう寄り添いますか。無限宇宙の中に、必要でないものはなく、唯一無二の存在としてのきみがいる。きみらしく生きてみよう!

ちいさなチャレンジ vol.1

内野清美

Kiyomi Uchino

実験！子連れ選挙してみた！



市長選挙に衆院選。2021年の秋は選挙の秋。2才と4才を連れて投票に行ってみましたが！2016年に法律が変わり投票所への18歳未満の子どもの同伴が全面的に解禁。「政治はタブー」な家庭で育つわたし。政治っておっさんたちがやる遠い世界のものだとばかり思っていました。でも子どもを授かり気付いたのです。「なんだ政治ってこの子たちのことじゃん！」って。いま振り返るともっと解像度高い世界観で、もっと違うひととも出会って、もっと豊かに生きてこられたのになー！と、とても残念に思います。だからこそわが子には「政治は暑い」と手渡そう！と

一番身近な政治!! 選挙をちいさな頃から一緒にたのしむ！と決めたのでした。

自宅から投票所まで歩いて3分。絵本を通じ「この

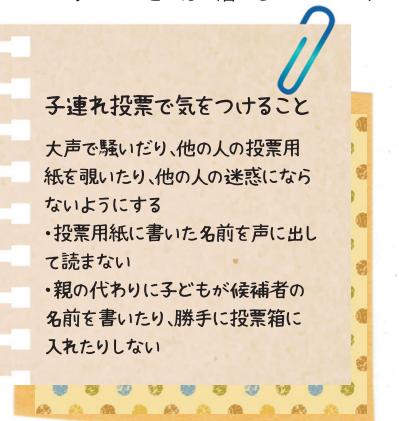
このちいさな実験にはミラクルな後日談がありまして。「子連れ投票広まるといいなあ」と山梨日日新聞の読者投票欄「私も言いたい」に投書してみたところ、なんと掲載されたのです！そしてなんとそれを読んだ新山梨市長から「感動した！会って話したい！」と連絡があり市長とお話しすることに！

政治つてわたしたちの暮らしの枠組みをつくるもの。「政治は暑い」を子どもに手渡すはじめの一歩として一緒に選挙をしたのしむのはすごくおすすめ！そしてそれと同じくらいおすす

めしたいのが、選挙と選挙の間も家庭を「政治タブース」にすること。政治や社会について親が当たり前に話す姿を見せる

街をもっと良くするリーダーを選ぶ=せんきょ」と知り、家の前を遊説していた「リーダーになりたいひと」と直接お話をした子どもたちは、リーダーになつて欲しいひとの名前を書いて箱に入れる「とうひょう」に嬉々としてついてきました。投票所では知らない大人がざらりと並んでいるせいか、急に静かになるふたり。ドキドキしましたが子連れを始められることはなく、むしろみなさん

Welcomeでにこやかな雰囲気じゃないですか！ いざ子連れ投票デビュー！ 「これがお名前を書く紙ね。ここでリーダーね！」と「でしょー！」と目の前で使って見せたのしみんなが生きる力をたっぷり付けこの世界に送り出してあげたい、と心底願つかないです。親孝行などおこがましい。わたしの人生の半分は子孝行！考え、学び、行動し続けることで思わず扉が開く面白さをたっぷり味わいました。「実験！子連れ投票！」たのしかった！そしてミラクルはまだまだつづく！



- 子連れ投票で気をつけること
- 大声で騒いだり、他の人の投票用紙を覗いたり、他の人の迷惑にならないようにする
- ・投票用紙に書いた名前を声に出して読みない
- ・親の代わりに子どもが候補者の名前を書いたり、勝手に投票箱に入れたりしない

magazine P は「市川房枝女性の政治参画基金」の助成を受けてつくりました！

「市川房枝女性の政治参画基金」は、女性が民主的ガバナンスの担い手となるために、女性の政治参画の推進につながる女性団体・個人の活動や調査研究等への助成を行うもの。

婦人参政権運動に生涯を貫いた市川房枝さん（1893-1981）。国会議員に初当選して以来、約20年間コツコツ歳費や手当の増加分を積み立て、これを女性の地位向上などに役立てたいと考えていたそう。1983年、その志を生かして総額2000万円で「市川房枝基金」が創設されました！

2020年度の助成先に、あたしたち「こども未来ラボ」を選んでいただきました。「市川房枝女性の政治参画基金」について、もっと詳しく知りたい方はこちら↓

<https://www.ichikawa-fusae.or.jp>



山梨県峡東地域発！ 大人の自由研究所「こども未来ラボ」とは？

子どもたちがイキイキ暮らせる未来をつくるために、気になるテーマを調べたり、話し合ったり、何かをつくってみたり。そんな「大人の自由研究」をシェアするかいな研究所が「こども未来ラボ」です。山梨県峡東地域（山梨市・甲州市・笛吹市）を中心に2019年4月から研究スタート！



応援してくださる方を募集しています！

子どもの未来をはばむアレコレ、一掃する Peace で Punk なフリーペーパーをつくっちゃえ！ 後先を考えていたらいつまで経ってもはじめられない。

無謀にも、自分たちのイメージを形にするところから走り出しました。これから、発行を続けられるように試行錯誤していきます。magazine P 創刊号を読んで、これからもこんなフリーペーパーがあったらいいなと感じていただけたら、ぜひ応援をお願いします！ 詳しくは、こども未来ラボの HP をご覧ください↓

<https://kodomomirailab.wixsite.com/website>

